

事例発表①

「図書館から広がる観光まちづくり」

公益財団法人日本交通公社

観光研究部 主任研究員(観光地マネジメント領域)

JTBF京都観光レジリエンス研究センター(京都事務所) センター長

福永 香織



日本交通公社

Copyright © 2024 JTBF All Rights reserved. <1>

本日の流れ

- はじめに
- 旅の図書館について
- 観光を取り巻く状況
- 図書館×観光まちづくり
- 総括

日本交通公社

Copyright © 2024 JTBF All Rights reserved. <2>

1. はじめに



自己紹介

福永 香織

- 2006年に観光専門のシンクタンクである(公財)日本交通公社に入社。
- 地域の観光ビジョン策定や施策実施支援、観光協会等の組織再編、観光財源確保に向けた支援など、観光地の調査・研究、コンサルティングに従事。
- 2017-18年には旅の図書館長を経験。その時の経験から「戦前の観光政策に関する研究(科研費)」実施。
- 2022-2024年度は京都市観光協会に出向。インバウンド向け情報発信やコンテンツ造成伴走支援、調査事業等を担当。



東京都生まれ
徳島県・千葉県育ち
ルーツは京都
(子供の頃からお盆と
年末年始は京都に帰省)



学生時代に民俗学と
まちづくりに目覚める
(主に漁村や農山村等で
フィールドワーク)
学芸員資格も取得



(公財)日本交通公社入社
主に地域の観光計画策定や
施策実施支援に携わる
(2017-2018年には
旅の図書館長も経験)



(公社)京都市観光協会に出向
主にインバウンド向け情報発信や
コンテンツ造成伴走支援、調査等を担当

Copyright © 2024 JTBF All Rights reserved. <4>

(公財)日本交通公社とは

(公財)日本交通公社 = 観光を専門とする実践的学術研究機関

- 1912年 ジャパン・ツーリスト・ピューローとして設立
(当初は、外客誘致のための組織)
- 1963年 営業部門(現在の(株)JTB)を分離
- 2016年 南青山に移転。学術研究機関に指定

(現在の主な事業)

- ・国・都道府県・市町村、観光協会やDMO等からの受託調査・研究
- ・旅行・観光に関する自主研究・自主事業
(温泉まちづくり研究会、旅行行動向シンポジウム、観光地経営講座など)
- ・研究成果の公表(書籍・機関誌の出版等)
- ・「旅の図書館」の運営 (※日本に2つしかないUNWTO寄託図書館の1つ)



青山一丁目駅徒歩3分



機関誌「観光文化」
PDFで全文公開中

Copyright © 2024 JTB All Rights reserved. <5>



2. 旅の図書館について



4月に京都事務所を設立

観光課題・政策最先端都市・京都において、
研究と実践の側面からレジリエンスの高い観光地域づくりに寄与する

- ①観光課題解決、様々な課題に柔軟に対応できるレジリエンスの向上、文化観光等に関する調査研究を行う。
- ②先行研究や海外事例等をもとにした効果的な情報提供や共同研究、受託事業等を通じて、地域の観光課題解決に寄与する。
- ③研究者や事業者とのネットワークを通じて京都の様々な課題や取り組みを形式化し、教育の場で活用する。



2025年度のキックオフ企画(案)

観光事業者の
新入社員向け研修プログラム確立
研修機会を持ちついで市内の中小事業者様を
対象に、新たに事業界に入った社員が
京都観光を学ぶ研修機会を提供。

高付加価値旅行者に関する研究

富裕層とは異なる高付加価値旅行者の実態を明らか
にしつつ、高付加価値コンテンツを取り巻く取組や課
題・展望等を整理
機関誌「観光文化」で公開
(2025年秋 267号)

文化観光研究会(仮)の立ち上げ検討
財源不足やソウルウッド不足で苦労している町家
や文化財などの所有者との研究会
(ネットワーク構築＆ノハリと共に&保全活用
研究)

「旅行動向シンポジウム」の京都開催
高付加価値旅行者をテーマに
研究成果の発表や実践者との
ディスカッション
(2025年11月7日)

Copyright © 2024 JTB All Rights reserved. <6>

旅の図書館とは ~観光の研究や実務に役立つ図書館~

- 1978年 「観光文化資料館」として開設
- 1999年 「旅の図書館」に改称
- 2016年 八重洲から南青山に移転・リニューアルオープン
- 2017年 UNWTO(国連世界観光機関)寄託図書館
- 2018年 専門図書館協議会より団体功績表彰



こんな方にオススメ!

観光の研究や実務に携わる方を中心に、
どなたでもご利用いただけます。

- 観光の研究者(大学教員など)
- 観光を学ぶ学生
- 観光の実務者
(官公庁・自治体、観光関係団体、
観光産業、マスコミ・広告・出版など)
- 観光に興味をもつの方
- 旅行の下調べをしたい方



Copyright © 2024 JTB All Rights reserved. <8>

蔵書の特徴

蔵書数は
約70,000冊

観光専門の図書館として 独自の図書分類を構築

観光研究資料 (T分類) 約11,000冊	コレクション資料 (F分類) 約25,000冊	基礎文献 (NDC分類) 約13,000冊	雑誌 約20,000冊 (約270タイトル)	その他 パンフレット、 観光地ニュース 資料等	
観光研究資料 (T分類) T=Tourism					
T0 観光原論・概論	特徴的 コレクション資料 (F分類) F=Foundation			基礎文献 (NDC分類)	
T1 観光者・観光活動(Ⅰ)	F0 JTBF関係資料				0 総記
T2 観光者・観光活動(Ⅱ)	F1 JTBF関係資料				1 哲学
T3 観光地・観光資源(Ⅰ)	F2 統計・白書				2 歴史
T4 観光地・観光資源(Ⅱ)	F3 ガイドブック・パンフレット				3 社会科学
T5 観光産業	F4 映像・デジタル資料				4 自然科学
T6 観光計画・開発	F5 時刻表・機内誌				5 技術・工学
T7 観光政策	F6 古書・貴重資料				6 産業
T8 観光経営・経済	F7 観光産業関連社史				7 芸術・美術
T9 観光と社会・文化・環境	F8 UNWTO資料				8 言語
	F9 非公開資料				9 文学

蔵書の特徴

觀光研究資料(T分類)

研究者、実務者向けの専門資料。観光の原論、観光法
観光地・観光資源、観光産業、観光計画・開発、観光政
観光経営・経済、観光と社会・文化との関わりなど
系統的な分類に基づいた書架構成によって、観光の
情報を網羅したから資料をお探しの方は是非お
立ち寄りください。



特徴的なコレクション資料(「分類」)



学術誌・海外ジャーナル

国内の主要な観光関連学会誌をはじめ、近年の観光分野の科研費論文報告書も収集しています。海外学術誌(電子ジャーナル)は主要4誌を館内の閲覧PCでご覧いただけます。



F3 研 一



Copyright © 2024 ITBE All Rights reserved

蔵書の特徴：木下文庫

1912年 日本郵船、南満州鉄道、東洋汽船、帝国ホテル、鉄道院の有志連合の上
ジャパン・ツーリスト・ビューロー設立

1. 漫遊外人に関係ある**当業者業務上**の改良を図ると共に、**相互営業上**の連絡利便を増進すること
 2. 外国に我が國の風景事物を紹介し、かつ**外人**に対して**旅行上**必要となる各種の報道を与うるの便を開くこと。
 3. 我邦に於ける**漫遊外人の便宜**を増進し、且つ**関係業者の弊風**を矯正すること。

●ビューポー設立に対する本下の視点

1. 日露戦争後の物価高騰と海外への正貨輸出に対し、外客を誘致することで国内での消費を高め、日本の生産品を広く外客に知らせ、輸出貿易の発達を促すとする経済政策
2. 外客を我が国に招き、アーチー相互通易会場を開設する。外客と日本人との親切・好意を計る

●ビューポー設立後は鉄道院の立場から様々な取り組みを実施

- ✓ ポートフォリオ設立後は鉄道系の立場からの
鉄道員職員の英語練習所の設置
 - ✓ 『An Official Guide to Eastern Asia』の作成
 - ✓ 食堂車や展望車を連結した特別急行列車の運行
 - ✓ 国立公園制度の確立に向けた取り組み
 - ✓ 時刻表の統制
 - ✓ 揭示表の表現改訂と鉄道車内のマナー向上等

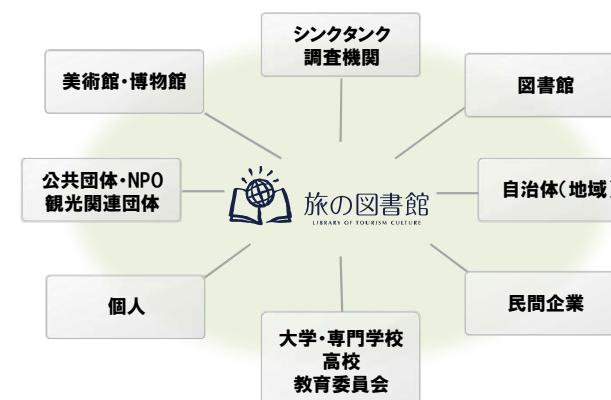


木下 淑夫
1874年 京都府
久美浜町(現)生ま



木下文庫
(木下の七回忌に有志が創設)

当館における連携ネットワーク



地域への資料の寄贈

- ✓ 移転時のコンセプト変更に伴い除籍した資料を由布市ツーリストインフォメーションセンターと阿寒湖温泉の観光インフォメーションセンターに提供



由布市ツーリストインフォメーションセンター



阿寒湖温泉まちむ館1階
「観光インフォメーションセンター」

Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <13>

図書館での交流イベントの実施

- ✓ 図書空間を活用した気軽な研究交流の場を提供することを目的に、2014年から開始。
- ✓ 外部の研究者や実務者から話題提供をいただき、参加者も含めて意見交換



京都でまちあるきツアーを実施している
「まいまい京都」の以倉さんを講師でお招き

Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <15>

港区や地域の観光情報の発信

- ✓ 地元・港区専用の観光パンフレットラックを設置し、港区の観光情報を発信
- ✓ 全国の各地域のパンフレットなどを展示



港区のパンフレットラックは現在エントランスに
移動



大阪市東京事務所の協力で「EXPO
2025 大阪・関西万博
～観光の街、大阪の魅力～」を展示

Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <14>

観光関連図書のキュレーターとして

- ✓ 観光専門のシンクタンクならではの視点で「一度は読みたい『観光研究書・実務書100選』」を選定
- ✓ 研究員のオススメ図書を推薦文・書籍と共に展示
- ✓ 大学ゼミの見学の受け入れ、図書館活用レクチャーの実施



研究員のオススメ図書



一度は読みたい「観光研究書・実務書100選」



大学ゼミの見学受入

Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <16>

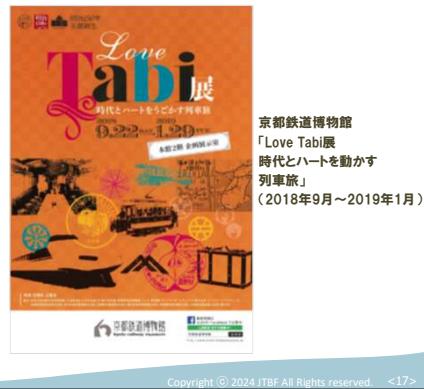
図書館・美術館等との連携

- ✓ 他の図書館や美術館等に資料を貸出す他、こちらが資料をお借りして展示することも



茨城県近代美術館
「旅にまつわる絵とせ
どら」(2025年7月~
8月)との連携企画

館内の古書展示ギャラリー



Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <17>

3. 観光を取り巻く状況



出典：京都市観光協会 (DMO KYOTO) [1]

国の観光政策の方針

- ✓ 現在、第5次観光立国推進基本計画（案）を策定中。
- ✓ 従来までの持続可能な観光や地方への誇客促進は意識しつつ、住民の生活の質の確保や、国内交流拡大などが組み込まれている。
- ✓ 観光の質（満足度、消費額）を高めていくための取り組みも継続

第5次観光立国推進基本計画の柱立ての方向性（案）

第4次観光立国推進基本計画		第5次観光立国推進基本計画（案）
自指す要 求（案）	観光の質の向上、 観光産業の収益力・生産性の向上、 交流人口・関係人口の拡大	地域住民と観光客双方の満足度の向上 により、 「動かしてほしい」の観光業の実現 日本の魅力・活力を次世代にも持続的に継承・発展させる観光
持続可能な観光 キーワード	持続可能な観光 消費額拡大	消費額拡大 地方誇客促進
施設の方 向性（案）	観光の持続的な発展 新技術の活用・本格展開	観光と交通・まちづくりの連携強化 新技術の活用・本格展開
施策の柱 （案）	持続可能な観光地域づくり戦略 インバウンド回復戦略 インバウンド回復戦略 国内交流拡大戦略 観光地・観光産業の強靭化	インバウンドの受け入れと住民生活の質の確保との両立 ・地域誇客を進めるための広域的な体制、コンテンツ等の整備 ・交通ネットワーク・宿泊施設等の基盤強化 ・局所的・地域的に生じているオーバーツーリズムへの効果的な対策等 ・コンラジ整備、受入環境整備 ・高付加価値なインバウンドの誘致 ・アワバウンド、国際相互交流の促進 ・国内需要の平準化 ・観光地・観光産業の強靭化 ・観光DX、省力化投資による生産性向上 ・健全な競争環境の整備（民泊の適切な運営等） ・コニバーサルリースルームなど多様なニーズへの対応等

交通政策審議会第53回観光分科会（資料）：新たな観光立国推進基本計画の方向性について
<https://www.mlit.go.jp/policy/chingaijii/content/001968333.pdf>

Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <19>

京都市の観光政策も「質」と「市民との調和」を重視

- ✓ 京都観光も「質」「市民との調和」「扱い手の活躍」を重視

観光客5000万人構想

世界があこがれる観光都市

『量』を重視

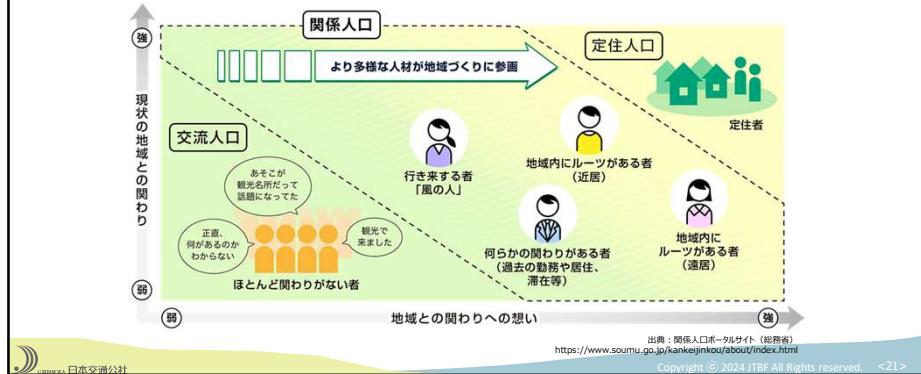
持続可能で満足度の高い
国際文化観光都市

京都市の入浴客数（実人数） 単位：千人



地域を訪れるのは「観光客」だけではない

- ✓ 「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々のこと
- ✓ 地域に来訪るのは、いわゆる観光客だけではない



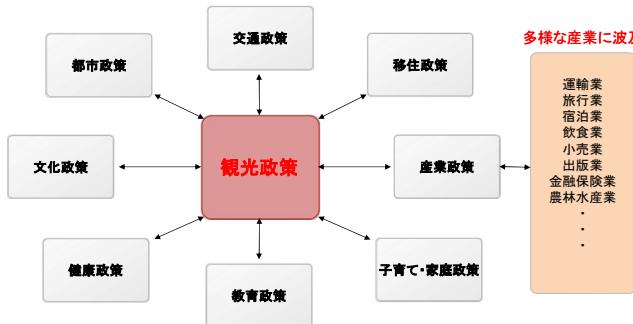
働き方×旅行スタイルの変化

- ✓ ワーケーションはWork(仕事)とVacation(休暇)を組み合せた造語。職場や自宅とは異なる場所で仕事をする。
- ✓ プレジャーはBusiness(ビジネス)とLeisure(レジャー)を組み合せた造語。出張先等で滞在を延長して余暇を楽しむ。
- ✓ 最近ではラーケーション (Learning (学習) とVacation (休暇) を組み合せた造語) というスタイルも注目。
- ✓ 自由に場所を選択しながら働く人々 (デジタルノマド) 向けに法務省は2024年4月から「デジタルノマドビザ」発行開始



地域の複合政策としての観光政策

- ✓ 観光政策は他の様々な分野の政策との関連があり、多様な産業に波及
- ✓ 従来から「観光はまちづくりの総仕上げ」と言われてきた



4. 図書館×観光まちづくり



伊那市立高遠町図書館

- ✓ イギリスのヘイ・オン・ワイのようなまちづくりを目指し2008年に「高遠ブックフェスティバル」を開始
- ✓ 2018年(10周年)には「高遠文芸賞」を創設し、高遠をテーマとした短編作品を募集
- ✓ 「高遠ぶらり」プロジェクト(図書館の古書を活用。古地図や観光地図などの上にGPSの現在地情報を表示させ、ランドマークピンをタップすると、史跡に関する記事や写真、観光情報が表示されるセルフガイドツール)。
- ✓ 「高遠ぶらり」を活用したウォークラリー「高遠ぶラリィ」等も実施



恩納村文化情報センター

- ✓ 隣に恩納村博物館が併設。恩納村文化情報センターの1Fには観光情報フロアがあり観光情報を提供
- ✓ 2Fには図書情報フロア、3Fには展望室があり、海を見ながら読書を楽しめる
- ✓ 観光情報誌では得られない恩納村内の情報が得られる
- ✓ 村外居住者にも本を貸し出し
- ✓ 村内ホテルでのミニライブラリーの設置(本の選書や貸出)、勉強会の開催



紫波町図書館

- ✓ 紫波中央駅前開発整備事業「オガールプロジェクト」の一環で整備された民間施設オガールプラザ内に2012年オープン
- ✓ 「知りたい」「学びたい」「遊びたい」を支援する図書館。特に町の産業基盤となっている農業を支援。
- ✓ 「オガールプラザ」内にある「紫波マルシェ」と連携し、野菜の隣に司書セレクトの関連図書を展示。
- ✓ 「オガールデザイン会議」を立ち上げ優れた空間デザイン・美しい街並みを意識。グッズも展開。



札幌市図書・情報館

- ✓ 札幌市民交流プラザ内の1・2Fに位置
- ✓ 「はたらくをらくにする」(Work, Life, Artに特化した課題解決型図書館)をコンセプトに掲げ、ビジネスバーソンを支援
- ✓ 図書の貸出をしない、日本十進分類表によらない棚づくり、会話が可能、席の予約が可能など
- ✓ 専門機関に起業・経営課題・事業資金などを相談できる無料の相談窓口を開設



鳥羽うみライブラリー

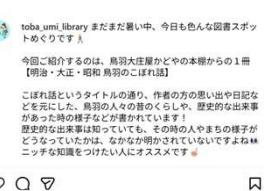
- ✓ 市内10箇所にテーマ別の書籍を設置
- ✓ 「芝浦工業大学」(地域活性化サークル鳥羽設計室)や「國學院大學」(観光まちづくり学部地域マネジメント研究センター)と連携し、本棚や椅子の設計、書籍の分類作業等を実施
- ✓ 鳥羽小学校の6年生に対する授業も実施
- ✓ 最近では鳥羽高校も新たな鳥羽うみライブラリーとして追加され、学生デザインのしおりも配布



鳥羽マリナーテーミナルに設置されている
鳥羽うみライブラリー



「とばんこ」と「てんてん」がインスタグラムで本を紹介



https://www.instagram.com/toba_umi_library/

Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <29>

鳥羽うみライブラリー

- ✓ 「鳥羽市観光基本計画」において、海そのものと、海を通じて生まれた歴史や生活文化、漁業文化の総体=「鳥羽うみ文化」が鳥羽らしさの核であることを確認
- ✓ 戰略1の「鳥羽うみ文化の具現化」のプロジェクトの一環として「鳥羽うみライブラリー」の設置に言及



https://www.toba.tohoku.mie.jp/material/files/group/36/kan_ko_kouk_actionprogram.pdf

戦略1 「鳥羽うみ文化」の具現化

プロジェクト5 鳥羽うみ文化関連史料のアーカイブ整理とさらなる活用

鳥羽市では、鳥羽の自然景観・名所旧跡、過去の情景、伝統芸能などの写真・映像を収集した「鳥羽デジタルアーカイブ」を公開したほか、三重大学でも海女関係の資料のアーカイブ化データベース化を進め、公開している。両者のデータベースの有機的な連携をはじめ、活用方法の検討や継続的な資料の収集とアーカイブの更新などを行う。



<https://toba-archive.jp/>

Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <30>

POP-UP LIBRARY KYOTO & BOOKS

- ✓ 2024年度に策定した「新京都戦略」で公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクトをリーディング・プロジェクトに位置付け→図書館の多機能化・サードプレイス化
- ✓ コーヒーの淹れ方ワークショップ(左京図書館)、キッチンカーの招聘やオススメ近隣マップ作成(中央図書館)、自分の思いや表現を自由にまとめた個人制作の小冊子作成ワークショップなどを実施(右京中央図書館)



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000062492.html>

Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <31>

民間の取り組み

立誠図書館

- ✓ 京都市立立誠小学校の跡地に開業した「立誠ガーデンヒューリック京都」内に一般社団法人立誠が設置する図書館
- ✓ ピクニックセット(レジャーシート、ランケット、バスケット)と共に立誠ひろばで本を読むこともできる



<https://bunmachi.org/book>



<https://gate-hotels.com/nsuei-library/>

ブックホテル京都九条

- ✓ 2024年にオープンしたブックホテル京都九条。2000冊を超える施設内の蔵書は、自由に閲覧可能。
- ✓ 階ごとにテーマがあり、テーマに沿った本が廊下や部屋に設置されている。
- ✓ 「お茶 × おかげ × 本」が楽しめるブックペアリングや、誕生日に紐づいた「366Books...」なども



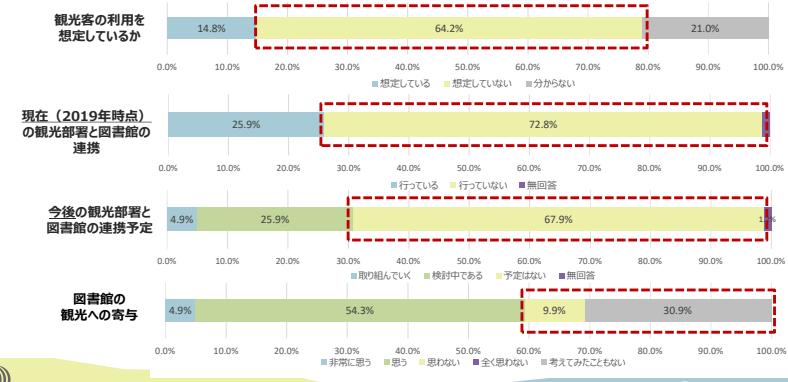
Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <32>



5. 総括

観光と図書館の連携の現状

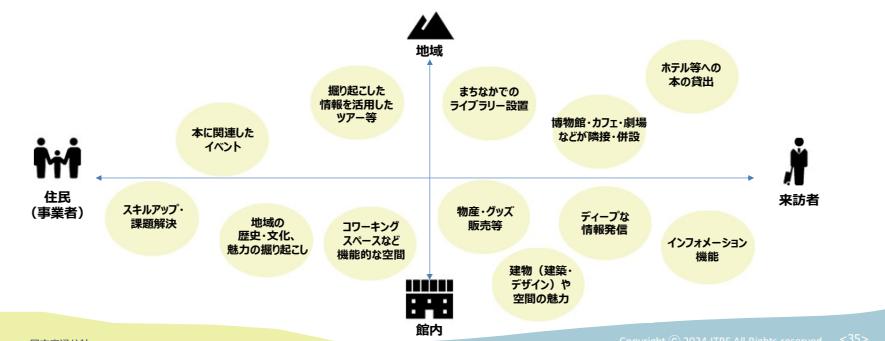
- ✓ 観光行政において図書館が意識されることは少なく、図書館と観光とほとんど結びついていないのが実情



Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <34>

狭義な「観光」のイメージをちょっと広げてみる

- ✓ 図書館というハコモノにとどまらず、地域をフィールドに様々な展開が可能
- ✓ 他地域が真似できない観光のコア・コンピタンスを探る上で、地域の図書館は宝の山！
- ✓ 来訪者を意識した取り組みは地元住民にとてもプラスに。そして「デザイン」は重要な要素
- ✓ 事業者の支援も重要な観光まちづくり



半世紀以上も前に提唱されていた「観光と図書館」

和田萬吉「旅客の為めに図書館」
ジャパン・ツーリスト・ビューロー、『ツーリスト』、第六年第五号、1918年9月、P.17-22

- 遊覧地、鉄道、汽船、ホテル等で小規模な図書館を設けることは緊切であり、特に避暑地など旅行者が長期滞在する場所では、旅行者のみならずその地域の繁栄を図る一策となる。
- 汽車、汽船は単に旅行者を送迎し、旅館は旅行者を宿泊させるだけではなく、その土地の有志と協力して小図書館の設置に早く着手すべきである。
- 図書館の管理・運営にあたっては片時間ではなく専任で従事する人を付けるべきである。
- 蔵書の数としてはそれほど多くなくても良いが、きちんと選書したものを置くこと。備えるべき図書としては、その地域の歴史、地理、工芸、産業などの郷土資料が第一であり、次いで高尚な文学、産業など美術書類などである。
- 閲覧は無料にすべきである。貸出する場合は一日は無料にして、それ以上の期間になる際は一定の料金を徴収することもよい。

南益行「観光図書館論」
日本図書館研究会編、『図書館界』第6巻第3号、1954年1月、P.109-110

- 広大無辺な世界の観光資源から一地域の自然風土にいたるまで、人類は永遠に散策する。その行く先々の史蹟を物語る資料や風土保全に関する計画書などの観光資料は、必ず旅人を満足させる。
- 観光図書館が中心となり高度な観光文化活動が展開されるならば、国家・社会的・文化的に大きな価値を創造し、主対象となる観光客の受けける便益も大きい。
- 従来の観光事業、観光活動により文化的な面を採用し、観光図書館のframeworkを構築する。
- 目的、資料構成、図書館奉仕の全活動において、特殊な専門図書館としての性格を持つ。
- 資料の種類：観光地図、観光写真、ポスター、絵葉書、郷土資料（史・志）、観光リーフレットなど
- 内外の観光客に対する誘致宣传をし、図書館資料を提供する観光文化活動推進のための種々の調査・統計・研究を行い発表する。
- 有能な館員または司書が担当する。
- ①国又は地方公共団体、②有志者や私立観光団体により出資・維持・経営する方式がある。

https://www.jtb.or.jp/tourism-culture/bunka243/243-16/
Copyright © 2024 ITBF All Rights reserved. <36>



公益財団法人
日本交通公社

ありがとうございました！

公益財団法人京都光の会 (DMO KYOTO)